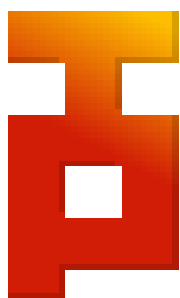


# 日本塑性加工学会 東海支部新進部会 あゆみ Vol. 8



March 2025

## 目 次

1. 新進部会「あゆみ Vol. 8」発刊にあたって
2. 新進部会に期待すること
3. 東海支部新進部会活動の振り返り
4. スタッパー一覧&言葉
5. 編集後記&謝辞

## 1. 新進部会「あゆみ Vol. 8」発刊にあたって

2024 年度リーダー 加藤 麻人 (JFE スチール)

新進部会は 1993 年度に発足し、1994 年度より活動を開始しました。2024 年度は新進部会が活動を始めて 30 周年という大きな節目を迎える年でした。この新進部会の活動を定期的に記録したものが「あゆみ」です。「あゆみ Vol. 8」を発刊するにあたり、改めて新進部会の理念・目的を以下に示します。これらは「若手による若手のための組織」として発足された新進部会の活動の中で今も伝承され続けています。

- ・若手会員同士で専門に関する意見・情報の交換を行い、視野を広げ、自分の立場を見直し、自己研鑽の糸口を見いだす機会を持つこと。そこで得られる交流・親睦の実を“横のつながり”とする。
- ・若手が大部分を占める場で先輩の話を聞いたり、指導を受けることにより、“縦のつながり”を作ること。
- ・普遍的な価値を持っている塑性加工の学問と技術の継承・発展に寄与する。

私は 2023、2024 年度とスタッフを経験させていただきましたが、今回の「あゆみ Vol. 8」においては 2022 年度～2024 年度の 3 年間の活動をまとめています。前回の「あゆみ Vol. 7」内に記録された活動から、その発刊時はコロナウィルスの影響を大きく受けた時期であることが伺えます。2022 年度からコロナウィルスの影響が徐々に落ち着いてきて、2022 年度後半あたりからコロナ対策を行いつつ対面での定例ミーティング・メンバーの職場見学会が開催できるようになりました。私が活動に加わった 2023 年度からは活動の形態や頻度はコロナ前と同様に実施できたのではないかと思います。世の中の状態や価値観が目まぐるしく変化する昨今ですが、そんな中でも新進部会の理念・目的を変えることなく活動を推進できていると思います。

この「あゆみ Vol. 8」には、3 年間の活動として新進部会メンバーが企画・運営し、時には東海支部幹事の方々に援助を頂きながら実施した若手討論会やスタッフ研修会についてまとめています。2024 年度の活動では通常の活動に加え新進部会 30 周年を記念したイベントを行いましたので、その様子も綴っています。そしてこうした新進部会での活動を通じてメンバーそれぞれが抱いた想いも掲載しています。「あゆみ」によって歴代メンバーの活動の軌跡と想いが後世に残るため、今後の新進部会活動の一助となり想いが繋がっていき、新進部会が益々発展することになれば幸甚です。さらにはその影響が塑性加工学会全体に広がることで塑性加工そのものが活発になっていくことを祈っております。

最後になりましたが、活動を共にしたスタッフ、ならびに東海支部幹事の皆様、多くのご助言いただいた諸先輩方には、新進部会の活動に対するご理解とご支援をいただき、新進部会の活動を推進することができました。心よりお礼を申し上げます。

## 2. 新進部会に期待すること

第 43, 44 期東海支部支部長 山田 毅 (三菱重工)

新進部会のあゆみ Vol.2 の発刊にあたっての序文を執筆したのが、今から 25 年前です。とても懐かしく思い出すと共に、まさか自分が支部長として「期待すること」を寄稿するとは当時は思いもよらないことでしたので、とても貴重な機会を頂けたことに深く感謝したいと思います。

新進部会のあゆみ Vol.2 には、当時の支部長をされておられた三菱自動車の加藤さんや、新進部会担当幹事であった岐阜大の後藤先生、JFE スチールの豊岡さんなどから、熱いメッセージを頂いていたことを今、再確認して、自分は期待に応えられたか？などと頭の中で検証しかけて、止めました。

当時の幹事の皆さんが繰り返し我々新進部会のスタッフに言っていた言葉は、「自由にやってください」、「幹事会は口を出しません」、「予算が足りなかったら工面するので言ってください」、「若い方々が楽しいと思うことをやってください」でした。「本当にそれで良いんですか？」と思いながら、新進部会の OB に相談しても、「何やってもいいんだよ、気にするな！」という同じ助言を頂き、逆に不安になったことを思い出します。期待に応えたのかと言われれば、好きにやらせて頂いたので、応えたはずですと心の中で答えました。

当時の日本塑性加工学会は、正会員数がピークか、ピークから少し減りだした時期であったと思います。まだまだ学会に勢いがあるものの、先々になんとかの不安を先輩方が抱かれていた時期であったと思います。当時に比べるとさらに正会員数は減りましたし、国内でのモノづくりはよりグローバルに広がっており、国内だけを見ていて良い時代ではなくなりました。どこで作っているか？は多様化しましたが、作っているという事実は今も変わりません。

新進部会スタッフとして、2 年目に企画した「ラピッドプロトタイピングに学ぶ」では、光造形や紙積層、今を時めく AM 造形である EOS や樹脂 AM について学んでいます。早く形が作れることの便利さや金属粉末造形であれば、数回は試し打ちができる金型が作れるなどの魅力を当時のスタッフで感じていたことを思い出します。この時は金属 AM で製品を作ろうとは思っていませんでしたが、早く試せるものを作る技術に魅力を感じていました。

新進部会リーダーから、支部長へと立場が変わっても、新進部会に期待することは昔も今も変わりません。「好きなことを自由にやって下さい！」この言葉に尽きます。その時代、その時代の若手技術者の皆さんが、モノづくりを楽しんでいることや学会を通じて同世代の異業種の方々と交流すること自体が新進部会の活動の使命であると思います。そして多くの新進部会 OB が今も東海支部の幹事として、活動を支えてくれていることも新進部会の活動の大きな成果であると思つづく感じる毎日です。新進部会を発足させて、自由にやらせようと考えた諸先輩方の先見の明に驚くばかりです。新進部会はこれまでも、これからも、学会と言う場を借りて、若手技術者が楽しいと思うことをやって頂ければ、また 10 年後にも寄稿する機会があるのでは？と楽しみにしております。

### 3. 東海支部新進部会活動の振り返り

2022 年 4 月～2025 年 3 月まで、東海支部新進部会が企画・運営を行ったイベントを主に紹介する。

| 開催時期       | 活動内容                                                | 開催場所           |
|------------|-----------------------------------------------------|----------------|
| 2022 年 5 月 | 第 281 回スタッフ会議                                       | Web            |
| 6 月        | 仕事紹介と第 282 回スタッフ会議                                  | 名古屋市工業研究所      |
| 7 月        | 仕事紹介と第 283 回スタッフ会議                                  | 名古屋市工業研究所      |
| 8 月        | 工場見学会と第 284 回スタッフ会議                                 | JFE スチール 知多製造所 |
|            | 工場見学会と第 285 回スタッフ会議                                 | アイシン 本社        |
| 9 月        | 仕事紹介と第 286 回スタッフ会議                                  | 名古屋市工業研究所      |
| 10 月       | 工場見学会と第 287 回スタッフ会議                                 | 愛知製鋼           |
| 11 月       | 仕事紹介と第 288 回スタッフ会議                                  | 岐阜大学           |
|            | 第 48 回討論会<br>「若手討論会」<br>「塑性加工とモノづくりと私」              | 岐阜大学           |
|            |                                                     |                |
| 12 月       | 工場見学会と第 289 回スタッフ会議                                 | 三菱重工業 大江工場     |
| 2023 年 1 月 | 工場見学会と第 290 回スタッフ会議                                 | デンソー           |
| 2 月        | 第 49 回討論会<br>「若手討論会」<br>「カーボンニュートラルから学ぶ未来へつなぐものづくり」 | 名駅モリシタ名古屋駅東口   |
|            | 工場見学会と第 291 回スタッフ会議                                 | 青山製作所 関工場      |
| 3 月        | 第 292 回スタッフ会議                                       | 名古屋市工業研究所      |
|            | スタッフ研修会<br>工場見学&技術紹介                                | ニチダイ 宇治田原工場    |
| 4 月        | 仕事紹介と第 293 回スタッフ会議                                  | 名古屋市工業研究所      |
| 5 月        | 第 294 回スタッフ会議                                       | 名古屋市工業研究所      |
| 6 月        | 工場見学会と第 295 回スタッフ会議                                 | デンソー 大安製作所     |
| 7 月        | 工場見学会と第 296 回スタッフ会議                                 | 青山製作所 関工場      |
| 8 月        | 工場見学会と第 297 回スタッフ会議                                 | 三菱重工業 大江工場     |
| 9 月        | 仕事紹介と第 298 回スタッフ会議                                  | 岐阜大学           |
| 10 月       | 第 50 回討論会<br>「若手討論会」<br>「塑性加工分野で働く私たち」              | 名古屋工業大学        |
|            |                                                     |                |
|            | 仕事紹介と第 299 回スタッフ会議                                  | 名古屋市工業研究所      |

|            |                                                        |                                                  |
|------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 11 月       | 工場見学会と第 300 回スタッフ会議                                    | アイシン 田原工場                                        |
| 12 月       | 工場見学会と第 301 回スタッフ会議                                    | JFE スチール 知多製造所                                   |
|            | スタッフ研修会<br>工場・施設見学&技術紹介                                | 「寺方工作所」<br>「和鋼博物館」<br>「島根大学次世代たたら協創センター (NEXTA)」 |
| 2024 年 1 月 | 工場見学会と第 302 回スタッフ会議                                    | 愛知製鋼 鍛造総合事務所                                     |
| 2 月        | 第 303 回スタッフ会議                                          | 名古屋市工業研究所                                        |
| 3 月        | 第 51 回討論会<br>「若手討論会」<br>「DX が拓く未来のものづくり」               | ウインクあいち<br>(愛知県産業労働センター)                         |
|            | 第 304 回スタッフ会議                                          | 名古屋市工業研究所                                        |
| 4 月        | 第 305 回スタッフ会議                                          | 名古屋市工業研究所                                        |
| 5 月        | 仕事紹介と第 306 回スタッフ会議                                     | 名古屋市工業研究所                                        |
| 6 月        | 工場見学会と第 307 回スタッフ会議                                    | アイシン 田原工場                                        |
| 7 月        | 工場見学会と第 308 回スタッフ会議                                    | デンソー デンソーギャラリー                                   |
| 8 月        | 工場見学会と第 309 回スタッフ会議                                    | 青山製作所 関工場                                        |
| 9 月        | 工場見学会と第 310 回スタッフ会議                                    | 三菱重工業 大江工場                                       |
| 10 月       | 仕事紹介と第 311 回スタッフ会議                                     | 岐阜大学                                             |
|            | 第 52 回討論会<br>「塑性加工学会 支部間 若手交流会」                        | 岐阜大学                                             |
| 11 月       | 工場見学会と第 312 回スタッフ会議                                    | UACJ R&D センター                                    |
| 12 月       | スタッフ研修会<br>工場・施設見学&技術紹介                                | 「藤次郎」<br>「武田金型製作所」<br>「燕市産業史料館」                  |
|            | 工場見学会と第 313 回スタッフ会議                                    | トヨタ自動車 本社 トヨタ会館                                  |
|            | 第 53 回討論会<br>「若手討論会」<br>～塑性加工を活用した身近なモノづくり～            | 豊田工業高等専門学校                                       |
| 2025 年 1 月 | 工場見学会と第 314 回スタッフ会議                                    | 愛知製鋼 鍛造工場                                        |
| 2 月        | 工場見学会と第 315 回スタッフ会議                                    | JFE スチール 知多製造所                                   |
|            | 日本塑性加工学会東海支部新進部会<br>30 周年記念イベント                        | 大同大学                                             |
|            | 関西支部共催 第 43 回先端塑性加工技術コロキウム<br>金属積層造形で切り開く未来-生産性向上の最前線- | 豊田自動織機 大府工場                                      |
| 3 月        | 第 316 回スタッフ会議                                          | 名古屋市工業研究所                                        |

### 3.1. 第 48 回討論会「若手討論会」～塑性加工とモノづくりと私～

令和 4 年 11 月 於 岐阜大学

#### 1. 行事概要

令和 4 年 11 月 4 日(金)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 48 回討論会「若手討論会」～塑性加工とモノづくりと私～】を岐阜大学で開催した。本企画では、運営スタッフ 5 名が若手技術者としての働き方や日常、体験について、学生を対象として講演を行った。

#### 2. プログラム

＜当日のスケジュール＞

|                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 開会の挨拶 (株) 青山製作所 光堀 聖輝 氏 | (15:00～15:05) |
| 講演                      | (15:05～16:20) |
| 全体質疑応答                  | (16:20～16:30) |

＜講演者＞

|                   |         |
|-------------------|---------|
| 講演Ⅰ：(株) デンソー      | 田中 健介 氏 |
| 講演Ⅱ：トヨタ自動車 (株)    | 鈴木 哲 氏  |
| 講演Ⅲ：JFE スチール (株)  | 吉村 悠佑 氏 |
| 講演Ⅳ：東海国立大学機構 岐阜大学 | 箱山 智之 氏 |
| 講演Ⅴ：名古屋市工業研究所     | 田中 智也 氏 |

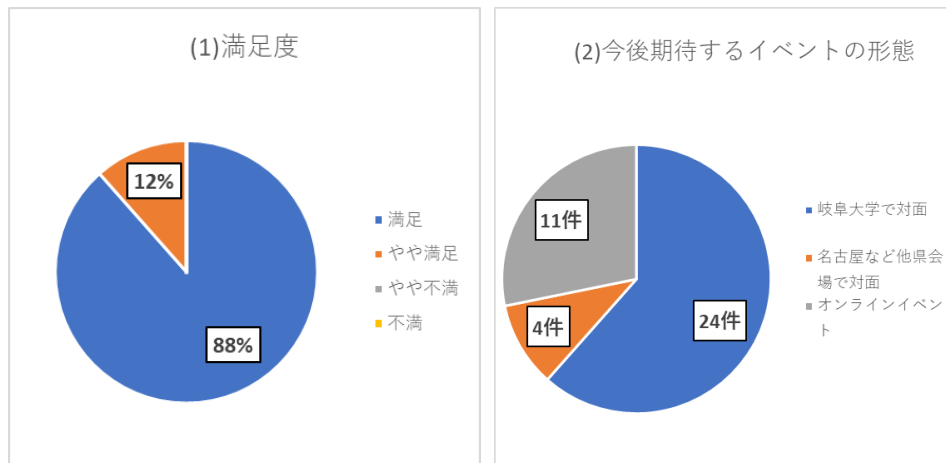
#### 3. 討論内容

講演内容は、学んできた塑性加工の知識がものづくり現場でどのように活用されるのかをイメージしていただくという趣旨で、コロナ禍における業務形態の変化や近年の社会変化に対する取り組み、海外出張における外国での生活を紹介した。講演には計 26 名の参加があり、講演後には学生各々が興味のある講演者を訪ねることで活発な意見交換が行われた。



写真：講演，全体質疑応答時の風景

#### 4. アンケート結果



##### 意見／感想（抜粋）

- ・英語の重要性を感じたので、頑張りたいと思った。
- ・来年より就職予定で、色々参考になった。
- ・企業のリアルが知れてよかった。
- ・研究者や企業に関する普段聞くことができない話を聞けて良かった。  
海外における塑性加工の位置づけの話が印象に残った。
- ・今後の研究のモチベーションにつながった
- ・企業で塑性加工の知識がどの様に使われているか分かってよかった。  
自分の今やっている研究と似た面もあり、興味を持てた

参加者からは「働き方の特徴を身近に感じることができた」「今後の研究のモチベーションにつながった」など好評であった。今後も対面でのイベントへ参加したいとの意見もあったが、オンライン開催を希望する意見も見受けられた。

### 3.2. 第 49 回討論会「若手討論会」～カーボンニュートラルから学ぶ未来へつなぐものづくり～

令和 5 年 2 月 於 名駅モリシタ名古屋駅東口店

#### 1. 行事概要

令和 5 年 2 月 10 日(金)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 49 回討論会「若手討論会」～カーボンニュートラルから学ぶ未来へつなぐものづくり～】を名駅モリシタ名古屋駅東口店で開催した。本企画では、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル実現のためには CO<sub>2</sub> 回収技術などの新しい技術の開発と適切な材料の選定が必要になることが予測されることから、カーボンニュートラルに向けた取り組みの方向性や、CO<sub>2</sub> 回収技術、適切な材料選定に関する講演をいただいた。

#### 2. プログラム

＜当日のスケジュール＞

|       |                     |               |
|-------|---------------------|---------------|
| 開会の挨拶 | JFE スチール（株） 吉村 悠佑 氏 | (13:30～13:35) |
| 講演    |                     | (13:35～16:15) |
| 質疑応答  |                     | (16:15～16:30) |

＜講演者＞（講演当時）

講演Ⅰ：カーボンニュートラルに向けた取り組み  
中部経済産業局 土屋 博義 氏

講演Ⅱ：カーボンニュートラル社会の実現に貢献する CO<sub>2</sub> 分離回収の対象産業拡大に向けた取り組み  
三菱重工業（株） 平田 琢也 氏

講演Ⅲ：自動車を取り巻く環境動向と使用材料  
三菱自動車工業（株） 尾嶋 良文 氏

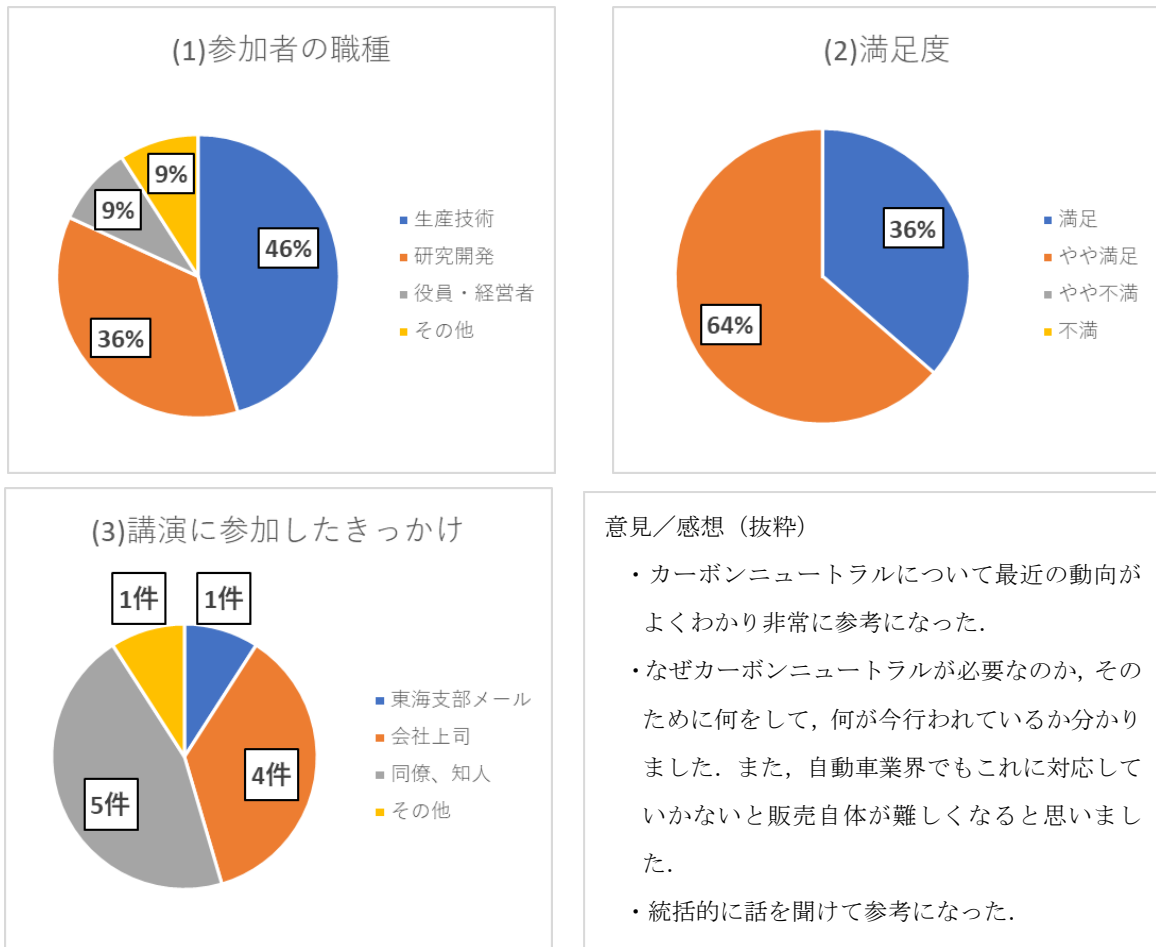
#### 3. 討論内容

今回の講演会では表題のテーマの下、中部経済産業局からカーボンニュートラルに関連する国の方針や考え方をご紹介いただき、各企業から実際に実施しているカーボンニュートラルに向けた取り組みや環境動向をふまえた材料の選定などご紹介いただいた。講演には 20 名の参加があり、質疑応答では多くの質問が寄せられ、活発な討論がなされた。



写真：講演，総合討論時の風景

#### 4. アンケート結果



参加者は、生産技術・研究開発が多く、講演に参加したきっかけは会社上司や同僚、知人が多く人から直接情報を聞くことがきっかけにつながりやすいと思われる。また、満足度は満足・やや満足の回答が全てで高い結果が得られ、自由記述欄にも好意的な意見が多く寄せられた。また、今後参加したいイベントとして、リサイクル材やバイオ樹脂等のセミナー、柔らかい素材、生体材料系に関するもの、車両部品の材料リサイクル技術セミナーなどの希望があった。

### 3.3. スタッフ研修会 (2022 年度)

令和 5 年 3 月

#### 1. 研修会の概要

見学先：(株) ニチダイ 宇治田原工場

訪問日：令和 5 年 3 月 24 日

#### 2. 訪問先

自動車部品などの製作に使用される精密鍛造金型の開発，製造，販売を行う（株）ニチダイの宇治田原工場を見学した．鍛造加工を行う際，金型は不可欠であり，その製造工程を見学することで金型製造プロセスの仕組みと塑性加工に関する理解をさらに深めた．また，これまで見たことのない鍛造金型の製造工程を観察できたほか，センシングダイセットの開発やその利用に関する技術も紹介頂き，DX 鍛造の技術が非常に進歩していると感じ，大変勉強になった．



写真：(株) ニチダイ見学時の風景

### 3.4. 第50回討論会 「若手討論会」 ～塑性加工分野で働く私たち～

令和5年10月 於 名古屋工業大学

#### 1. 行事概要

令和5年10月10日(火)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第50回討論会「若手討論会」～塑性加工分野で働く私たち～】を名古屋工業大学で開催した。本企画では、今後、社会で活躍する学生の方々が学んできたことをものづくりの現場で活用するイメージをつかめるよう、塑性加工に関わる若手技術者の日常を交えた講演を実施した。

#### 2. プログラム

＜当日のスケジュール＞

|                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 開会の挨拶 (株)デンソー 田中 健介 氏 | (15:00～15:05) |
| 講演                    | (15:05～16:05) |
| 全体質疑応答                | (16:05～16:30) |

＜講演者＞

|                   |         |
|-------------------|---------|
| 講演Ⅰ：(株)デンソー       | 田中 健介 氏 |
| 講演Ⅱ：トヨタ自動車(株)     | 阿部 健明 氏 |
| 講演Ⅲ：東海国立大学機構 岐阜大学 | 箱山 智之 氏 |
| 講演Ⅳ：名古屋市工業研究所     | 谷口 智 氏  |

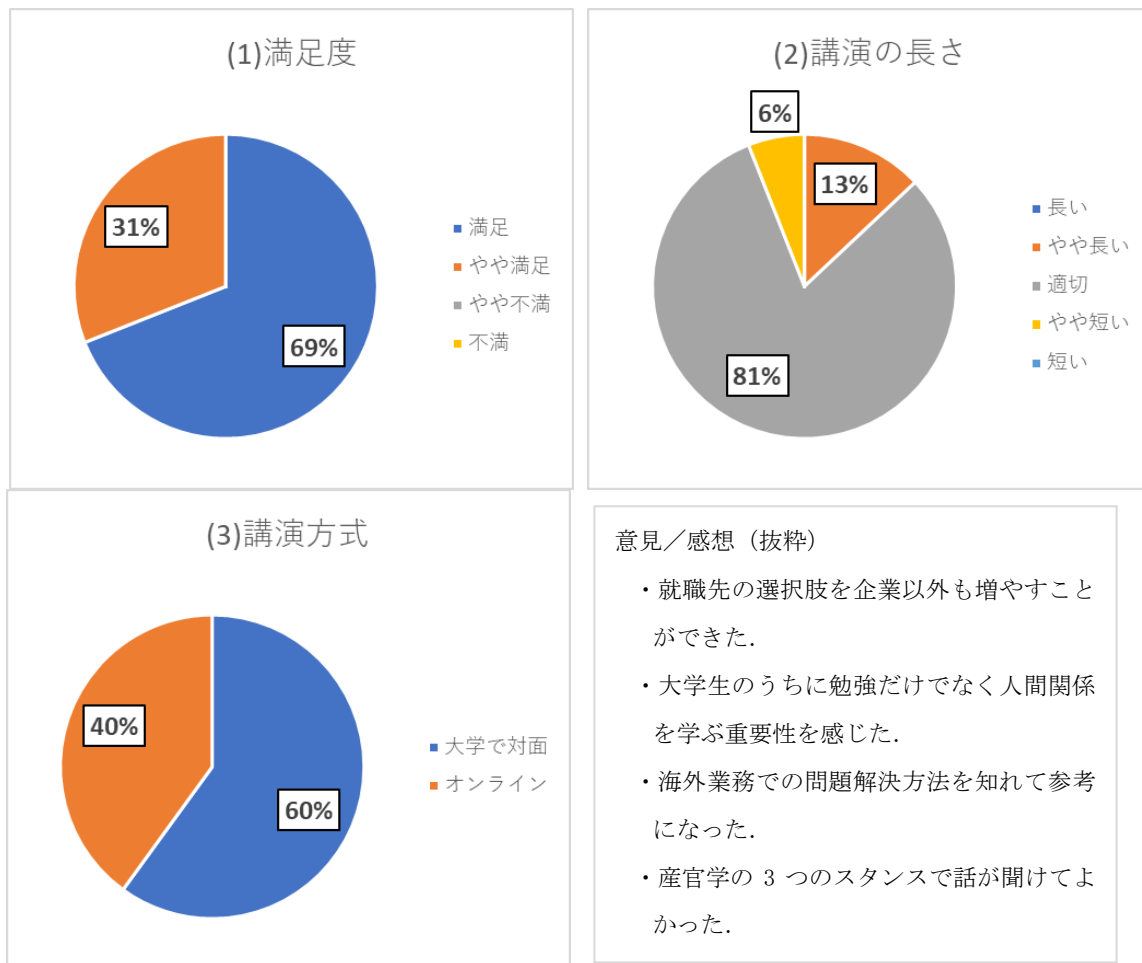
#### 3. 討論内容

今回の講演会では新進部会メンバーの特色を生かし産・官・学の視点でそれぞれどのように学んだことを活用しているか、企業での働き方、大学での働き方等、普段聞けないことを講演し、今後についてのイメージをつけて頂くことができた。



写真：講演，総合討論時の風景

#### 4. アンケート結果



参加者の中には就職が決まっている学生もおり，残りの学生生活での過ごし方の参考になったと思われる．また，今後参加したいイベントとして，同じような企画（企業の話が聞ける場）を望む声も多くあり，フランクに話せる時間を設けてほしい等の要望もあった．

### 3.5. 第51回討論会「若手討論会」～DXが拓く未来のものづくり～

令和6年3月 於 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）

#### 1. 行事概要

令和6年3月1日(金)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第51回討論会「若手討論会」～DXが拓く未来のものづくり～】をウィンクあいち（愛知県産業労働センター）で開催した。本企画では、近年広く浸透し始めたIoTやAIを活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に向けた取り組みの事例を講演頂いた。

#### 2. プログラム

<当日のスケジュール>

|       |                  |               |
|-------|------------------|---------------|
| 開会の挨拶 | 三菱重工業（株） 阿部 邦彦 氏 | (13:30～13:35) |
| 講演    |                  | (13:35～16:15) |
| 総合討論  |                  | (16:15～16:30) |

<講演者>（講演当時）

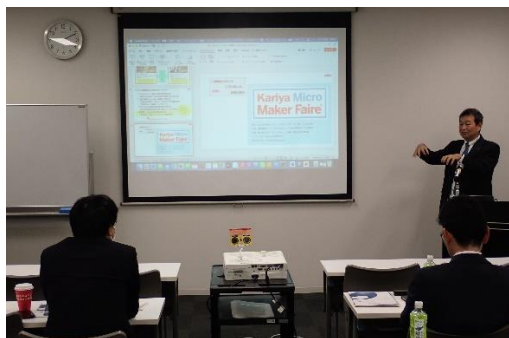
講演Ⅰ：DX推進に向けた経済産業省および中部経済産業局の取り組み  
中部経済産業局 柳澤 翔太 氏

講演Ⅱ：社内ブリッジエンジニアによるDX活動事例の紹介～身の丈デジタル～  
（株）樋口製作所 樋口 徳室 氏

講演Ⅲ：IoTへの取り組みによる「スマート工場モデル」の実現  
日進工業（株） 長田 和徳 氏

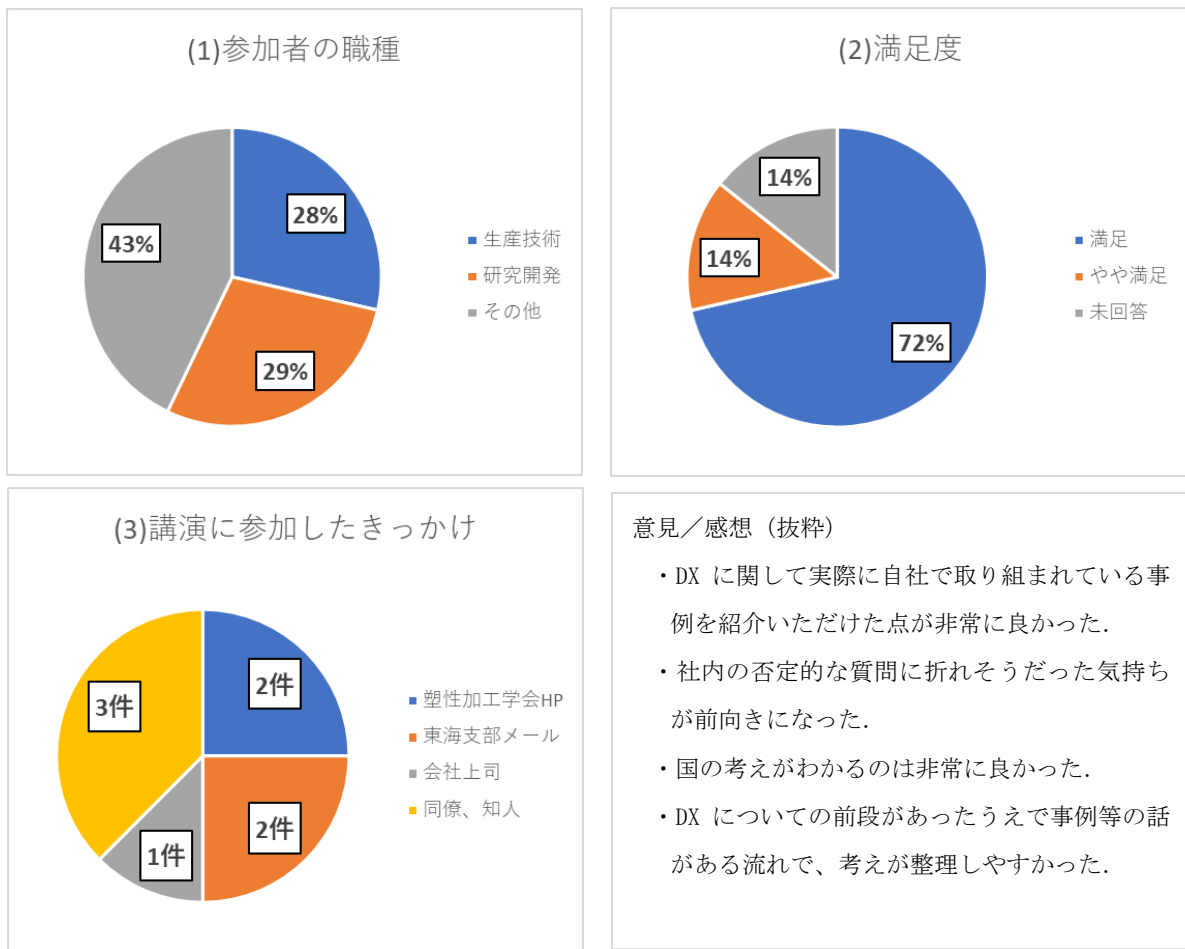
#### 3. 討論内容

今回の講演会では表題のテーマの下、中部経済産業局からDXに関連する国の方針や考え方をご紹介いただき、各企業から実際に実施しているIoTやAIを活用したDXに関連する取り組みをご紹介いただいた。講演には7名の参加があり、質疑応答では多くの質問が寄せられ、活発な討論がなされた。



写真：講演，総合討論時の風景

#### 4. アンケート結果



参加者は、生産技術・研究開発が多く、講演に参加したきっかけは塑性加工学会 HP や東海支部のメールなどに加え、同僚・知人もあり、口コミによる情報拡散が効果的であると思われる。また、満足度は非常に高く、自由記述欄にも好意的な意見が多く寄せられた。また、今後参加したいイベントとして、今回のような実際に企業が取り組んでいる DX の事例紹介と、事業場・工業見学を伴うイベントの希望があった。

### 3. 6. スタッフ研修会 (2023 年度)

令和 5 年 12 月

#### 1. 研修会の概要

見学先：①（株）寺方工作所，②和鋼博物館，③島根大学次世代たたら協創センター（NEXTA）

訪問日：令和 5 年 12 月 20～21 日

#### 2. 訪問先

初日は（株）寺方工作所を見学した。他社では作れない品質の良いものを作るプロセスを見学させていただいた。『大企業がやらないことをやる』という社長の技術者としての志を強く感じることができた。また、塑性加工分野以外でも従業員の特性に合わせた人材育成の考え方，地元に着した採用活動方針など，経営者としての社長のこだわりを感じることができた。これまでの工場見学では経験したことのないような，大変学びの多い工場見学になった。

二日目の午前は和鋼博物館を見学した。ここでは，たたら場の歴史とたたら製鉄の仕組みを学んだ。実物や模型の見学を通して，たたら製鉄の仕組みを肌で感じることができた。また，たたらに関わる人達にとって，たたらは単純な産業としてではなく，神事のような一面もあるのだということを学んだ。これが工業化した現代でもたたら製鉄技術が引き継がれている所以なのだと強く感じた。

二日目の午後は島根大学次世代たたら協創センター（NEXTA）にて，センター施設内見学と講義を受講した。『硬さ試験の逆解析による箔材の流動応力曲線自動同定』，『Fe-B-Si 系アモルファス合金の微視的構造の解明に向けた理論研究』の 2 テーマを受講した。通常では想定されない条件での解析で新たな発見が生まれるということが印象的であった。



写真：（株）寺方工作所見学時の風景

### 3.7. 第 52 回討論会 「塑性加工学会 支部間 若手交流会」

令和 6 年 10 月 於 岐阜大学

#### 1. 行事概要

令和 6 年 10 月 21 日(月)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 52 回討論会「塑性加工学会 支部間 若手交流会」】を岐阜大学及びオンラインにて開催した。本企画では西日本若手技術交流会が発展的休止となって以来久しい支部間の交流と組織の活性化を目的としている。参加した支部は東北・北海道支部、北陸支部、北関東・信越支部、東関東支部、東海支部（新進部会）、関西支部である。

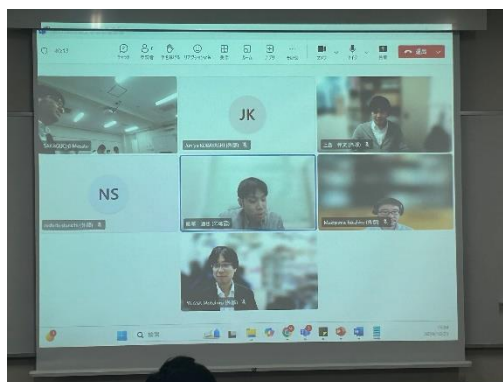
#### 2. スケジュール

＜当日のスケジュール＞

開会の挨拶 名古屋市工業研究所 谷口 智 氏 (15:00～15:05)  
交流会 (15:05～17:00)

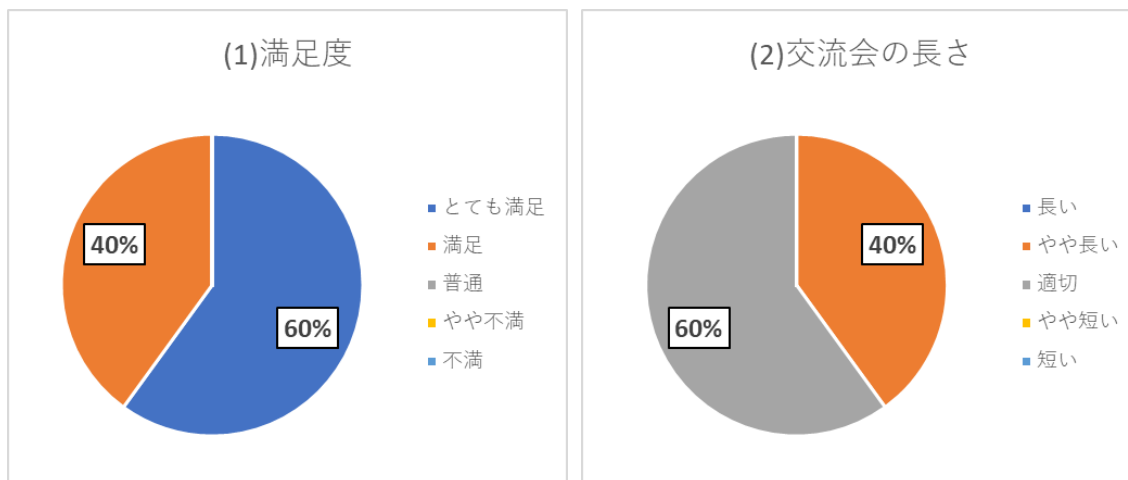
#### 3. 交流会内容

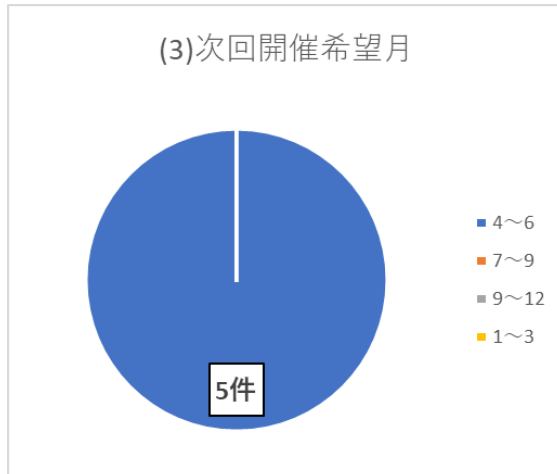
各支部の活動内容や課題の共有。支部間連携に期待する事、実現できうる企画の議論・検討。



写真：若手交流会の風景【新進部会メンバー（左）、各支部（右）】

#### 4. アンケート結果





### 【意見・感想】

#### ○交流会に参加して特に良かった点

- ・他の支部の状況を共有できた。若手の会が活発な支部は若手の会員の入替が周期的にできていることが知れた。人員の入替などが活発になるように、支部内でも協議したい。
- ・各支部の若手の会担当のご事情を知ることができました。当支部も企業さんの担当者がいない等同様の状況でした（企業内には若手が必ず居りますが、なかなか支部運営の場に出て来てもらえない）。
- ・連合講演会での若手交流会よりもざっくばらんに連携について議論することができた。
- ・各支部の状況を共有でき、連携に向けて動き出そうという流れになった点。
- ・交流会キックオフミーティングを企画いただき、実際にアクションに移すことができた点が非常に良かったと考えています。0 から 1 にしていただいたことで、今後の連携につながるものであると感じています。

#### ○改善が必要と感じた点や、今後の希望

- ・支部間の連携についても強くしていければと思います。
- ・まずは今回のように負担の少ない形で連携の形を探っていくのが良いと思います。
- ・予算的に難しいところはありますが、やはり対面で行えると交流は行いやすいように感じました。ただ、優先度としては、このような会を開くということの方が高いため、オンラインでもやむを得ないようにも感じています。
- ・各支部の若手の会の行事に、他支部の新進部会を共催/協賛にする案は良いと思います。関東3支部の行事では、「関東3支部」とタイトルに付いてしまっているために他支部からの発表参加が OK なのか NG なのか微妙なところがあります。これまでの関東3支部行事の流れからすると NG のような感覚です。他支部が共催協賛になっていれば、何の問題もなく他支部学生の発表が行えます(ただし、あまりに遠方だと、学生の交通費補助が全額出せない可能性有)。行事タイトルも「関東3支部」を何か別のものに変えたほうが良いのかもしれません。
- ・このミーティングの際にありました、各支部の企画を共有して、共催に発展させるということについて、前向きに進めていきたいと考えています。

本交流会の企画と開催を行い、他支部も支部間の交流を希望していることが分かった。また、直面している問題についても若手人員確保の困難さ等似たものを感じた。そして各支部の開催している若手企画には違いがあり地域学生の発表の場、組織員の学習の場、等様々な物があり、上手く連携が出来れば企画の幅が広がる事を感じた。しかし、内容の差が大きいので連携の難しさも同時に感じた。

## **5. 成果**

2024年10月に開催した交流会キックオフミーティングをきっかけに、2025年2月に関西支部と「第43回先端塑性加工技術コロキウム」を共催で行うことができた。引き続き、次年度以降も支部間の連携を強化していく。

### 3. 8. 第 53 回 討論会「若手 討論会」 ～ 塑性加工を活用した身近なモノづくり～

令和 6 年 12 月 於 豊田工業高等専門学校

#### 1. 行事概要

令和 6 年 12 月 19 日(木)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 53 回 討論会「若手 討論会」～ 塑性加工を活用した身近なモノづくり～】を豊田工業高等専門学校で開催した。本企画では、運営スタッフ 6 名が参加し内 3 名が若手技術者としての働き方や、塑性加工の知識が身近なものにどのように活かされているかについて、学生を対象として講演を行った。

#### 2. プログラム

< 当日のスケジュール >

|           |              |             |               |
|-----------|--------------|-------------|---------------|
| 挨拶・メンバー紹介 | JFE スチール (株) | 加藤 麻人 氏, …他 | (13:25～13:30) |
| 講義(通常授業)  | 豊田工業高等専門学校   | 浅井 一仁 氏     | (13:30～13:40) |
| 講演        |              |             | (13:40～14:45) |
| 全体質疑応答    |              |             | (14:45～14:55) |

< 講演者 >

- 講演Ⅰ：「鍛造加工（差動ギヤ）」  
(株) アイシン 豊田 裕俊 氏
- 講演Ⅱ：「圧延加工（アルミ缶，アルミ箔）」  
(株) UACJ 永谷 圭祐 氏
- 講演Ⅲ：「転造加工（ボルト）」  
(株) 青山製作所 高島 広太郎 氏

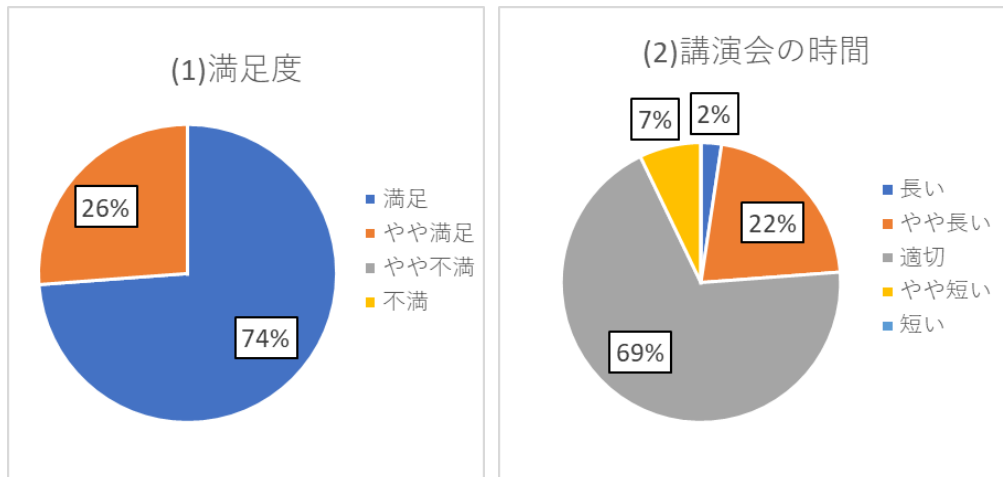
#### 3. 講演内容

講演内容は、今後社会で活躍する学生の方々に塑性加工の実例を各企業より講演させていただき「塑性加工を知ってもらい、自分の将来を決める際の参考にして頂く」という趣旨で、各々が仕事でやりがいを感じている部分や、身近で使われている塑性加工品について各工程におけるサンプルを見せながら簡単なクイズを交えつつ紹介した。講演には計 42 名の参加があり、講演後には学生各々が興味のある講演者を訪ねることで活発な意見交換が行われた。

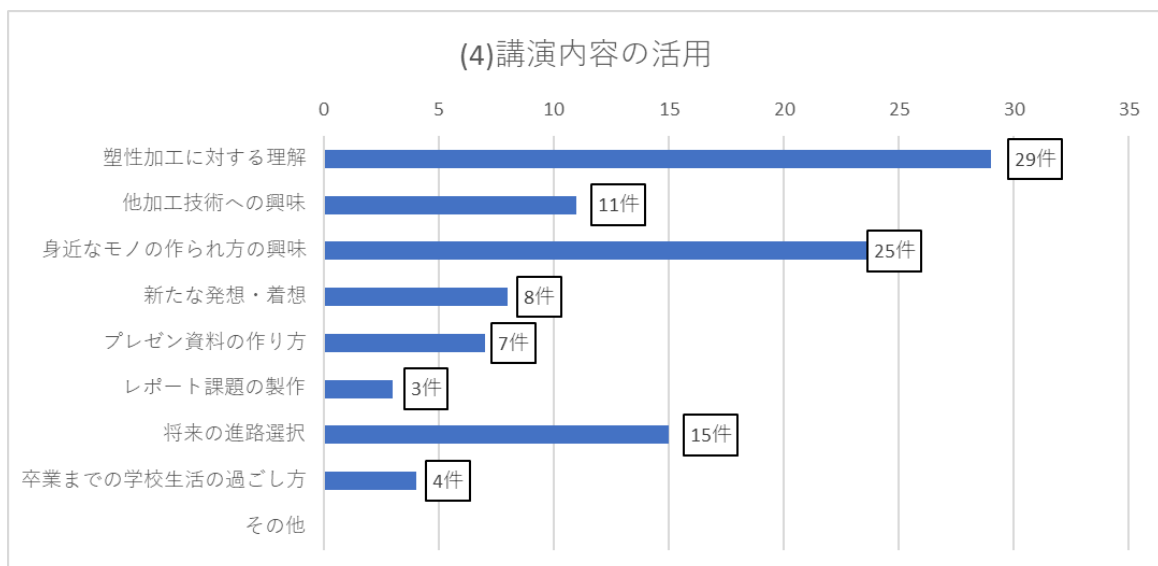
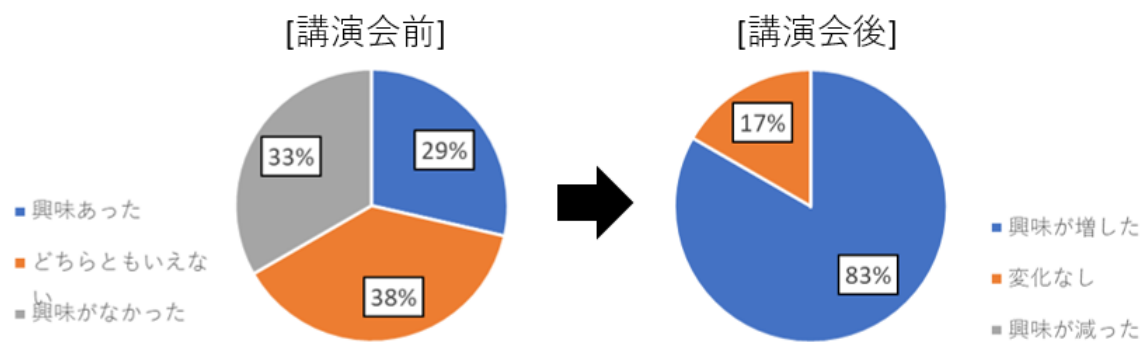


写真：講演，全体質疑応答時の風景

#### 4. アンケート結果



#### (3)塑性加工への興味



講演会については学生にとって満足いく内容であり、20分×3人という時間も概ね適切であった。また、大半の学生が講演を聞くことで塑性加工への興味が増しており、“未来の若手技術者達に塑性加工に興味を持ってもらう”という本行事の目的を果たすことができた。講演内容の活用先を見ても、塑性加工の理解やモノづくりへの興味に次いで将来の進路選択を挙げており、本講演の趣旨に対し、学生たちに我々の思いを伝えることができたと言える。

### 【意見/感想】

(抜粋)

- ・講演を通して身近なものの作られ方を知ることができて面白かった。
- ・塑性加工だけではなく企業のことについても話を聞くことができたので参考になった。
- ・今後は塑性加工により注目して授業を受けていきたいと感じた。
- ・若い方々が会社でも活躍されていることがわかり、自分も将来しっかり活躍できるよう普段の勉強も頑張っていこうと思った。
- ・塑性加工なので固い授業のような感じだと思っていたが、各企業の説明が面白くとてもよかった。
- ・いろんなことを学ぶことができ、塑性加工について理解するだけでなく将来の道についてもたくさん考えることができた。

参加者からは「実物を見たり触れたりできたのがすごく良かった」「講義や実習だけでは親近感がなかったが、実例と繋がり加工が身近なものに感じられた」など好評であった。一方で「もう少し踏み込んだ内容(他の加工方法や実際の加工条件、設計手順…等)を話してほしい」「仕事以外の日常の話もっと聞きたかった」などの意見も見受けられた。また、興味を持った学生からは「できれば企業で仕事をしている様子も見てみたい」や「講演会をたくさん行ってほしい」など前向きな意見もあった。

### 3.9. スタッフ研修会 (2024 年度)

令和 6 年 12 月

#### 1. 研修会の概要

スタッフ研修会は東海支部新進部会のメンバーの新たな知見の発掘と結束強化を目的に東海地区以外の地域の工場，研究機関の見学会を実施している．令和 6 年度は江戸時代より金属加工の集積地として知られている新潟県中部の燕三条の工場を見学した．

見学先：①藤次郎（株），②（株）武田金型製作所，③燕市産業史料館

訪問日：令和 6 年 12 月 4～5 日

#### 2. 訪問先

##### (1) 藤次郎（株）

藤次郎（株）は包丁・調理用品の製造販売を行っており，全ての工程を一貫して包丁の製造を行うことのできる国内屈指の刃物メーカーである．刃物には鍛造によって作製する「打ち刃物」と金属板から金型で打ち抜いて成形する「抜き刃物」の二種類があり，藤次郎では「抜き刃物」の技術を得意としている．見学会では藤次郎オープンファクトリーの見学を行い，刃物製造の歴史や製造方法を拝見することができた．



Fig. 1 打ち抜きに使用していたプレス機と金型

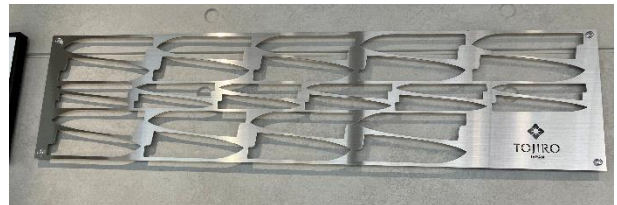


Fig. 2 打ち抜き後の素材プレート

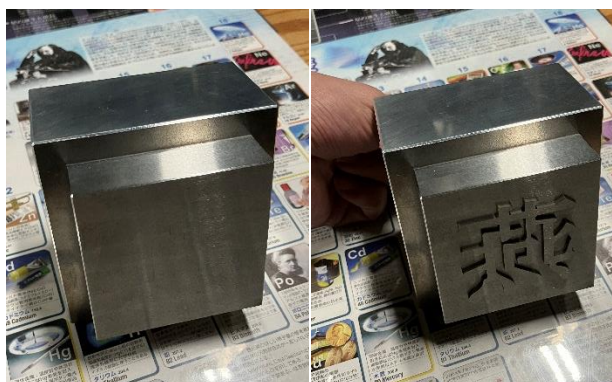


Fig. 3 藤次郎での集合写真

##### (2) （株）武田金型製作所

（株）武田金型製作所は金型製作のスペシャリスト企業であり，見学会では主として金型製作の心臓部であるワイヤー放電加工機について見学し，加工方法についての知見を深めることができた．また，

同社が2009年に分かりやすく技術を伝えるために作製した「マジックメタル」をはじめ、抜き加工品を見せていただくことができ、同社の技術力の高さを直感的にも知ることができた。



(1)収納時 (2)文字展開時

Fig. 4 マジックメタル



Fig. 5 武田金型製作所での集合写真

### (3)燕市産業史料館

燕市産業史料館は「産業博物館」の先駆けとも言える博物館で、江戸時代から現代までの燕の産業の歴史を紹介している。同館では新潟県中部で金属加工が発達した地理的な要因から、江戸時代の彫金技術、それを活かした明治以降の洋食器製造、現在の金属加工技術など包括的に知ることができ、自分自身の知見を広げることができた。



Fig. 6 燕市産業史料館での集合写真

## 3. まとめ

本スタッフ研修会では主として金属加工技術の専門知識や情報を得ることができた。金属材料は最も一般的に使用される材料であるため、その知見の量と深さの一端を知ることができる機会となった。また、研修会後に行われた交流会では研修会で感じた技術的な内容に加え、同年代に共通する話題について語り合うことができ、新進部会の目的の一つである「横のつながり」を深めることができたと感じている。

### 3. 10. 日本塑性加工学会東海支部新進部会 30 周年記念イベント

令和 7 年 2 月 於 大同大学

#### 1. 行事概要

令和 7 年 2 月 21 日(金)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【30 周年記念イベント】を大同大学で開催した。本企画は、新進部会が 30 周年を迎える記念として、新進部会に携わってきた塑性加工技術者・研究者と共に新進部会の存在意義や活動の効果など様々な視点で意見交換し、塑性加工技術の今後の発展について考える場とすることを目的として実施した。

#### 2. プログラム

##### ＜当日のスケジュール＞

|                  |                      |               |
|------------------|----------------------|---------------|
| 開会の挨拶            | 名古屋工業大学 北村 憲彦 氏      | (15:00～15:05) |
| 新進部会のこれまでの活動紹介   | JFE スチール (株) 加藤 麻人 氏 | (15:05～15:25) |
| 新進部会歴代リーダーからのご挨拶 |                      | (15:25～16:05) |
| グループディスカッション     |                      | (16:15～16:45) |

##### ＜ご挨拶者＞

|              |          |                   |              |
|--------------|----------|-------------------|--------------|
| (株) デンソー     | 高橋 嘉仁 氏  | 2021 年度リーダー       |              |
| 名古屋市工業研究所    | 村田 真伸 氏  | 2020 年度リーダー       |              |
| 三菱重工業 (株)    | 金澤 勇也 氏  | 2019 年度リーダー       |              |
| JFE スチール (株) | 佐々木 俊輔 氏 | 2018 年度リーダー       |              |
| JFE スチール (株) | 松本 昌士 氏  | 2016 年度リーダー       |              |
| (株) デンソー     | 山田 憲吾 氏  | 2015 年度リーダー       |              |
| (株) UACJ     | 長井 康礼 氏  | 2010 年度リーダー       |              |
| 三菱重工業 (株)    | 池田 陽介 氏  | 2009 年度リーダー       |              |
| 岐阜大学         | 吉田 佳典 氏  | 2004, 2005 年度リーダー | ※ 加藤 麻人 氏 代読 |
| 三菱重工業 (株)    | 山田 毅 氏   | 1998, 1999 年度リーダー |              |

##### ＜グループディスカッションテーマ＞

- テーマ①：次世代の塑性加工技術者を増やすには  
(塑性加工技術者の人材確保における課題・取組)
- テーマ②：環境にやさしい未来の塑性加工について  
(カーボンニュートラル等昨今の環境背景に対して塑性加工が出来る取組)

#### 3. 企画内容

本企画には現役・歴代の新進部会メンバー計 31 名が参加した。これまでの活動紹介では、新進部会が 30 年間で主催した企画のトレンド分析、および直近 2 年の活動詳細を紹介し、今後の新進部会の発展に向けて検討が必要な問題提起を行った。

歴代リーダーからのご挨拶では、リーダーを務められていた当時の活動振り返りや、新進部会での活動が現在に活かしていること、今後の新進部会に期待することなどに関してコメントを頂いた。どのリーダーも、新進部会活動は社外のメンバーとの横の繋がりを作れる貴重な機会であり、新進部会を卒業後、同様の機会は二度となかったため、貴重な時間を有意義に活用して欲しいとコメントいただいた。また、

各自の業務が忙しい時、新進部会活動は通常業務とは関係ない休憩時間のように感じることもあるが、興味を持った企画の立案・議論・運営する時間は、通常業務を進めていくために回復する大切な時間であるため、収益を意識せず気になる企画を立案・運営して欲しいとのコメントをいただいた。

グループディスカッションでは、6人5班に分かれ、決められたそれぞれのテーマについてのディスカッションを実施した。どのグループでも活発な議論が行われ、主に下記に示すアイデアを共有できた。

テーマ①：次世代の塑性加工技術者を増やすには

- A 班：・塑性加工の魅力を若い世代に伝わるため、YouTube を活用して宣伝する。  
・マイナスイメージを払拭する。
- B 班：・塑性加工を身近に感じてもらうため、子供用の教材・玩具を開発する。  
・予算を獲得するため、塑性加工を活用した新規事業を立案する。  
・塑性加工関連企業への就職者を、学会が表彰する。
- C 班：・教育機関と企業が連携し、学生向けの工場見学などのイベントを企画する。

テーマ②：環境にやさしい未来の塑性加工について

- D 班：・消費エネルギーを低減するため、低荷重で加工できる加工法を開発する。  
・エネルギーコストの低い加工方法を選定できる設計にする。  
・労働環境を改善するため、自動化の推進や、夜勤の低減を実施する。
- E 班：・リサイクル材とバージン材の強度差を低減する塑性加工技術を開発する。  
・排熱を利用した効率的な生産プロセスを構築する。  
・エネルギー効率の向上に向けて、熱処理中の成形など、他工程との連携・集約を検討する。

年度末が近く忙しい時期の企画開催となったが、多くの方にご参加いただき新進部会の「縦のつながり」を再確認し、広く意見交換ができる良い機会となった。今後も同様の企画を開催できるように、本企画での学びを整理し、次の世代へと経験を引き継いでいく。



写真：集合写真、これまでの活動紹介中の風景

## 4. スタッフ一覧&メンバーの言葉

本章では 2022 年度から 2024 年度までのスタッフを紹介する。

### 4.1. スタッフ一覧

#### ■2022 年度（第 29 期）

| 氏名    | 所属        |
|-------|-----------|
| 田中 健介 | デンソー      |
| 光堀 聖輝 | 青山製作所     |
| 阿部 邦彦 | 三菱重工      |
| 箱山 智之 | 岐阜大学      |
| 池田 善人 | 愛知製鋼      |
| 鈴木 哲  | トヨタ自動車    |
| 稲垣 薫  | アイシン      |
| 吉村 悠佑 | JFE スチール  |
| 劉 午陽  | UACJ      |
| 田中 智也 | 名古屋市工業研究所 |

#### ■2023 年度（第 30 期）

| 氏名    | 所属        |
|-------|-----------|
| 田中 健介 | デンソー      |
| 光堀 聖輝 | 青山製作所     |
| 阿部 邦彦 | 三菱重工      |
| 箱山 智之 | 岐阜大学      |
| 中村 涼  | 愛知製鋼      |
| 阿部 健明 | トヨタ自動車    |
| 豊田 裕俊 | アイシン      |
| 加藤 麻人 | JFE スチール  |
| 當山 守人 | UACJ      |
| 谷口 智  | 名古屋市工業研究所 |

## ■2024 年度（第 31 期）

| 氏名     | 所属        |
|--------|-----------|
| 新宮 嵩規  | デンソー      |
| 高島 広太郎 | 青山製作所     |
| 岡井 大河  | 三菱重工      |
| 坂口 雅人  | 岐阜大学      |
| 中村 涼   | 愛知製鋼      |
| 阿部 健明  | トヨタ自動車    |
| 豊田 裕俊  | アイシン      |
| 加藤 麻人  | JFE スチール  |
| 永谷 圭祐  | UACJ      |
| 谷口 智   | 名古屋市工業研究所 |

### 4.2. メンバーの言葉

#### 新進部会のスタッフ活動を振り返って

田中 健介（デンソー）

22 年度、23 年度の 2 年間新進部会のスタッフを担当させていただきました。私たちの代にはコロナの影響も落ち着き始め、面直での打ち合わせや工場見学・懇親会も徐々に行えるようになり、社外の塑性加工に携わる方との交流を深める本来の姿に戻ってきたと思います。企業に就職してからは他社様の工場を見学できる機会が限られてしまっていますが、新進部会の活動で多くの工場を見させて頂き、さらに担当者だからこその説明や、そこから発展するメンバー間の技術議論が盛り上がり、毎回の活動は非常に楽しいものと感じておりました。

行事企画では、1 年目・2 年目ともに学生との交流を目的とした活動を担当し、自分の海外業務経験をお話しさせて頂きました。大学 1 年生から修士 2 年の学生とは 10 歳以上年齢が離れているため、準備の段階ではどうすれば有意義な時間と感じてもらえるか不安がありましたが、活動を支えてくれるメンバーや職場の上司の方々の助けを受けて無事終わることができました。アンケートの結果でも自分の話した海外での塑性加工業務の経験に興味を持ってもらえた内容もあり、僅かながらですがこの分野に貢献できたのではないかと思います。

最後に、2 年間一緒に活動した新進部会のメンバー、このような貴重な機会を与えてくださった塑性加工学会 東海支部の皆様感謝を申し上げます。

## 新進部会スタッフ活動を通して

光堀 聖輝（青山製作所）

2022 年度から 2023 年度の 2 年間、新進部会スタッフとして担当しました。1 年目はサブリーダーを担当、2 年目は新進部会のリーダーを務めさせていただきました。あつという間の 2 年間でしたが、各企業の工場・施設見学は、各工場で作られる様子や会社の雰囲気を知ることができました。実際に他企業が生産している所は通常業務ではなかなか見る機会がない為、各々の企業を知る機会と知見を広げることができた貴重な 2 年間だったと感じます。

新進部会の活動では、1 年目はサブリーダーに任命されましたが 2 年目の先輩方についていくのが精一杯で、定例ミーティングを通して、メンバーと交流を深めること・企画の流れを覚えるので、必死でなかなか意見が出せず受け身の姿勢で居たのを覚えています。

23 年度では、リーダーを務めさせていただきました。私にリーダーが務まるのかと当初は不安な思いがありましたが、定例ミーティングを通していく中で、やるしかないという思いで、メンバーや東海支部の方々にご協力いただきながらも、企画行事を行い無事終えることができたことを、この場を借りて感謝致します。

今後も交流を続けていけたらと思っておりますので、新進部会メンバーのつながりが途絶えないよう皆様のご活躍と今後の発展を期待しております、2 年間ありがとうございました。

## 新進部会スタッフ活動を振り返って

阿部 邦彦（三菱重工業）

2022 年度の途中から 2 年弱の間、新進部会スタッフとして携わりました。途中からの参加だったこともあり、当初は不安もありましたが、メンバーの皆さんの助けもあり最後まで活動をすることができました。

毎月の定例会ではメンバーの会社の工場見学をする機会を頂けましたが、普段なかなか見ることのできない他業種・他製品の製造工程を見ることができ、非常に有意義なものだったと同時に、自分の業務にも生かすことができる経験を得られたと感じています。

イベントに関しては、若手討論会の担当として 1 年目にはサブとしてカーボンニュートラルに関する討論会、2 年目にはメインで DX に関する討論会を開催しました。開催までの準備等は大変でしたが、いずれも現在の製造業においてトレンドとなっている題材であり、講演していただいた方々の話す内容も今後の業務において大変参考になるものだったと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった塑性加工学会東海支部の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 新進部会の活動を振り返って

箱山 智之（岐阜大学）

2022 年度～2023 年度の 2 年間にわたり担当いたしました。大学教員は減少傾向にあるため、順番が目に見えてわかり、心の準備もできておりました。大学は 1-3 月がなかなか忙しく、スタッフ皆様にご迷惑おかけしたところもあるかと思いますが、コロナ禍以前の運営に戻りつつあるタイミングでもあり、毎月 1 回の定例スタッフ会議と工場見学を対面で開催していただき、感謝しております。大学におりますと現場を見る機会もなかなかありませんので、大変良い刺激になりました。特に昨今の脱炭素などの社会変革の流れがあるなかで各企業がどのようにすすめていくのか、今後の研究活動を進めていく上での参考にもなりました。

1 年目の学生向けのイベントは岐阜大学内で実施していただき、研究室の学生にとって大変よい機会をご提供いただきましたこと御礼申し上げます。2 年目はスタッフ研修会の取りまとめをいたしました。鳥取と島根の訪問をコーディネートし、板鍛造やたたら製鉄、アモルファス合金を学ぶことができました。自由に活動できるよう予算の面でフォローしていただいた東海支部に御礼を申し上げます。

東海地域は塑性加工の企業も多く、大学教員にとって企業の特に同世代のメンバーとの交流、横のつながりを作っていくことができる点はこの新進部会の活動の大きなメリットで、貴重な機会と思います。今後もこの新進部会の活動が継続し、発展していくことを祈っております。

## 新進部会スタッフ活動を通して

中村 涼（愛知製鋼）

23 年 4 月より新進部会スタッフとして 2 年間務めさせて頂きました。特に 24 年度は新進部会 30 周年ということで企画行事も増えて、やることが多く濃い 1 年だったと思います。

私が新進部会に参画した当初は、学生時代以来ほとんど縁がなかった学会活動に不安になりました。しかし、実際に活動に参加してみると各メンバーが和気あいあいとした雰囲気の中で企画・行事運営をしており、良い意味でイメージとのギャップを感じました。

個人的に楽しみだったのは、毎月の定例ミーティングでの各社の工場見学です。塑性加工と言っても色々な工法があり、身近な様々なものに利用されていることを実際に見ることができて興味深かったです。また普段の業務では他社を見に行く機会はほとんどなかったため、同年代のエンジニアの仕事ぶりがかかなり刺激になったのと他社の良い部分をみることができて、自社の課題を考えるよい機会になりました。新進部会としての活動参加は今年度で終わりになりますが、今後も社外活動や講演会への参加は積極的にしていきたいと思います。

近年、塑性加工分野の人口が縮小傾向にあり、特に学生・若手技術者の中には塑性加工にあまり興味がない方もいるかと思いますが、新進部会 OB として、そういった方々に塑性加工は粗材から部品ま

で、製造の基盤である重要な分野であることを普段の業務やOB訪問などの場を活用し伝えていきたいと思っています。

## 新進部会の活動を振り返って

阿部 健明（トヨタ自動車）

23, 24 年度の 2 年間新進部会のスタッフを担当させていただきました。私たちの代ではちょうどコロナの影響が落ち着いたこともあり、面着での活動を精力的に実施してきました。活動を通して普段の業務では関わることもない同業他社の方や学生の方との交流は私にとって非常に有意義な経験になりました。

定例ミーティングでは意見交換や工場見学を通して知見を深めたり、自身の視野を広げたりすることで自業務に活かすことができました。行事運営では 1 年目は行事①を担当し学生に向けた講演を行いました。大学生が対象ということもあり、一回り年齢が離れた相手に講演することへの不安がありました。事前ミーティングにてスタッフからアドバイスや支援をいただいたおかげでやり遂げることができました。2 年目は行事③のスタッフ研修を担当しました。新潟県の燕三条周辺の企業と燕市産業史料館の見学を行いました。見知らぬ土地のため見学先の選定、移動の経路と手段の検討など準備が非常に大変でしたが、行事を終えた後にメンバーから好評の声をいただき、各スタッフの知見とスタッフ間の親睦を深めることに貢献できたかと思っています。

最後にこのような貴重な機会をくださった塑性加工学会東海支部の皆様、2 年間共に活動してきた新進部会スタッフの皆様に感謝申し上げます。

## スタッフ活動を経験して

豊田 裕俊（アイシン）

2023 年度より新進部会スタッフメンバーとして参加。スタッフの打診あった際、新進部会という言葉は聞いたことあるがどういう組織なのかわからず自分にできるか不安だった。前任者より「仲間は同世代だしこまらずに活動すればいいよ～」という言葉で少し安心した。

私はスタッフ活動を通じて二つ成長できる機会を得た。

一つ目は工場見学の企画、実際にやってみて説明の難しさ、見学者はどのようなことを聞きたいのかが理解でき、いい経験になった。二つ目は学生向け講演。今まで大人数の前で講演したことがなかったが講演してみて説明の仕方、時間配分等勉強になった。

スタッフ活動は各社メイン業務を持ちながらやっていて毎月のミーティングは大変だった。

その中でも毎月のミーティング参加率は約 80%程度と高く、その理由は各社の工場見学があるからだ

と断言できる。塑性加工という分野は同じでも異業種の工場見学ができ、大きいものから小さいものまで作り方は様々であり、ものづくりは固執して考えてはならないと痛感した。

また、新進部会の趣旨である縦と横のつながりも行事を企画していく中で大学・高専の先生方や社外メンバーとのやりとりを通じて構築できた。今後の業務でつながりを生かしていけたらと思います。

最後に、来年度以降も新進部会の活動の中で学生に塑性加工の楽しさを知ってもらい、塑性加工に携わる仲間が増えていくと幸いです。

## 新進部会の活動を振り返って

加藤 麻人（JFE スチール）

2023 年度、2024 年度の 2 年間、新進部会スタッフとして活動し、1 年目はサブリーダー、2 年目はリーダーを務めさせていただきました。

1 年目が始まる前の初回の引継ぎミーティングでは、詳細がよく分らないまま参加し、そして 2 年目からリーダーになることがほぼ確定していたという状況であったので、色々と困惑していた記憶があります。しかし、回を重ねるごとに新進部会活動に対する理解や各メンバーの職場見学で得られる貴重な経験、メンバーと打ち解けていくことにより、次第に活動を進めることが楽しくなりました。1 年目はリーダーの補佐役というポジションでしたが、光堀リーダーは何事も卒なくこなしていたため補佐の必要がなく、新進部会におけるリーダーの役回りや活動の進め方など様々なことを勉強させてもらえました。

2 年目で実際にリーダーを務めることになってから、初めはかなり不安がありましたがメンバーの方々に多く支えていただけたため、無事に活動を推進させることが出来ました。これまでとはターゲットや趣向を変えた若手討論会を企画し行いましたが、これにより企画の難しさやその運営時に細部まで想定する重要性などを学ぶことが出来ました。2 年目では通常の行事に加えて新進部会 30 周年記念イベントを行う年度であったため、毎月の定例ミーティングでは会議時間が長くなることがよくありました。この点はもっと上手にやる方法があったかもしれないと反省しております。しかし、長引いている会議の中でも嫌な顔することなくメンバーの皆さんが和気あいあいと活発に議論していただけたので大変感謝しております。

最後に、新進部会の各行事にご協力いただいた関係者の皆様、各行事や予算の面で様々なご支援をいただいた東海支部幹事の皆様、活動を共に行っていただいた新進部会メンバーの皆さんに心より御礼申し上げます。新進部会が今後も継続していき、益々発展することを祈っております。

## 新進部会の活動を振り返って

谷口 智（名古屋市工業研究所）

2023 年度から 2024 年度の 2 年間にわたり、新進部会のスタッフを務めさせていただきました。この 2 年間は、コロナ禍が落ち着いたことで、前年度までとは異なる部分も多く単なる前例踏襲にはならず色々と考えながら交流が出来たため、苦労もありながら実のある交流が出来たと感じています。1 年目は、慣れないこともあって勝手が分からなかった上、定例ミーティングにタイミングが合わず参加できなかったことがあり、主体的な交流が出来ずただ参加するだけが主になっていましたが、当所でのミーティング開催も複数回行い、行事の企画や懇親会での交流、工場見学など、貴重な経験を積むことができた仕事のモチベーションもあがりました。2 年目は 1 年目の反省を生かし、より主体的に交流会に参加することができました。その結果として、多くの方々との交流を深め、多くの知見を得られたため、非常に良い経験となりました。これからもこのつながりを大切にしながら、塑性加工に携わっていきたいと考えています。

最後にはなりますが、活動にご協力頂いた塑性加工学会の先生方、企業の皆様、そして新進部会スタッフの皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

## 新進部会スタッフ活動を振り返って

新宮 嵩規（デンソー）

2024 年度から新進部会スタッフとして携わりました。様々な企業や公的機関の方々がいらっしゃる中、足を引っ張らないか不安な気持ちでいっぱいでしたが、皆様あたたかく迎え入れて下さり 1 年を通して楽しく活動できました。今年は 30 周年記念行事もあったことから、みんなで議論する時間も多く大変だと感じる場面も多かったですが、その分メンバー達とたくさん話すことができたのでお互いを理解し合いそれぞれの長所を活かしながら、チームとして 1 つになって進められたと思います。定例 Mtg.での各社の工場見学においても、メンバーそれぞれの様々な視点からの意見や疑問点があったのが大変興味深く、それらの議論を通して自分自身の成長にもつながりました。来年度はこのメンバーも入れ替わりとなり大変寂しいですが、私自身 2 年目メンバーとなるので今年以上のチームを目指し、楽しく活動できるよう貢献していきたいです。メンバー 1 人 1 人が楽しく活動することで新進部会そのものがより発展していくことと思います。

最後になりますが、この 1 年間一緒に活動した新進部会のメンバー、活動を支援してくださった塑性加工学会東海支部の皆様、各行事をはじめ様々な活動に関わった多くの方々に感謝を申し上げます。

## 新進部会スタッフ活動を振り返って

高島 広太郎（青山製作所）

2024年4月より新進部会スタッフの一員になり、早くも1年が過ぎようとしています。新進部会の存在は耳にした事がありましたが、その具体的な活動内容は知りませんでした。引継ぎにて活動を具体的に聞くと、他企業の工場を見られると楽しみになる一方、自分に務まるのかと不安を感じたことを覚えています。しかし、頼りになる先輩スタッフ、同期スタッフのおかげで1年を終えることができました。

楽しみにしていた工場見学では、知識でしか知らない加工方法を実際に用いた生産現場を見ることができ、とても良い経験となりました。行事では学生に講演する機会をいただきました。講演後には学生と多くの言葉を交わし、金属加工が社会でどの様に用いられているかを伝え、そして学んでいる金属加工を社会で生かすことへ興味を持ってもらえました。

来年度からはスタッフ2年目となり、活動のメインを担当することになります。より積極的に活動を行い、新進部会の発展につながるよう努めていきたいと思います。

最後になりましたが一緒に活動したスタッフの皆様、支部の皆様、関係頂いた皆様へ御礼申し上げます。

## 新進部会スタッフ活動（1年目）を振り返って

岡井 大河（三菱重工業）

2024年度から新進部会スタッフとして携わりました。元々担当予定だった方の都合もあり、引継ぎの会に参加できず4月の定例会に参加したため、最初はとても緊張しながら参加したことをよく覚えています。しかし、今年度のメンバーが皆話しやすい方だったおかげで、すぐにメンバーの一員として受け入れていただき、議論に混ぜてもらえたためとても活動しやすかったです。

個人的には、毎月の定例会で各社の工場見学ができたことが貴重な経験で楽しかったです。見学する工程はもちろん塑性加工工程ですが、普段社内の現場で見ている塑性加工とは規模もスピード感も違い新鮮でした。また、工場全体の雰囲気にも違いがあり、新しい刺激を得ることができました。

これまでの弊社の新進部会スタッフは、現在の東海支部長の山田さんをはじめ、お世話になっている先輩方であり、皆さん精力的にも携わってきた活動のため、少しでも自分にできる部分は活動していこうと思っていました。しかし、今年度は1年目ということもあり、全体の活動を把握していくこと、他のスタッフのお荷物にならないようにすることでいっぱいでした。来年度は他の地区と比較しても活発に活動できているこの新進部会の活動全体を楽しみながら、より盛り上げていければと思います。

最後になりますが、新進部会を支援してくださっている幹事会の方々をはじめ、多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 初年度の新進部会スタッフ活動振り返り

坂口 雅人（岐阜大学）

2024 年度より塑性加工学会 新進部会の運営スタッフを務めさせて頂くこととなりました。任命時は新進部会の活動をほとんど知らない状態で前任者の箱山先生から引き継いだことを覚えております。私は東海支部所属の前は関東の方に所属しておりましたが、その時には活動に参加する機会がなかったため、東海支部の活動の活発さに驚きました。最初は新進部会の企画や目的を理解するために様子見に徹しておりましたが、自由闊達な雰囲気であることもあり、徐々に意見を言えるようになりました。東海地域は産業、塑性加工が盛んな地域であるため、企業所属メンバーが多数派となっていることも、この自由な雰囲気の醸成に寄与しているのではないかと考えております。私自身は普段、大学に籠りがちなので、新進部会での企業の技術者や公設試の研究者の方々と交流することで、貴重な経験をさせていただきました。2024 年度は高専向けの行事、他支部との交流会、スタッフ研修会の他、新進部会 30 周年記念行事と様々な行事の企画に携わらせていただきました。いずれの行事においても、盛況のうちに実施できたのではないかと考えています。

最後に 2025 年度は引き続き活動に参加させていただきますが、2 年目のメンバーとして役に立つことができればと考えております。

## 新進部会スタッフ活動（1 年目）を振り返って

永谷 圭祐（UACJ）

2024 年度から新進部会に所属し、サブリーダーを務めさせていただきました。今年度は、豊田工業高等専門学校（高専）の学生への講演および、本誌の作成をメインに担当しました。講演会では、会社説明や業務概要をプレゼンしました。企業での働き方や、学生時代に学ぶ塑性加工学の活用等の内容を学んでいただきました。来年度も若い世代向けに塑性加工を広める活動を推進していきたいと考えています。「あゆみ」は 2022 年度から 2024 年度の活動内容をまとめました。作成過程で過去の活動に対する理解を深めることができました。先輩スタッフ方の取り組みを今後の活動の参考にしていきたいと思いました。

一年間、新進部会での活動を通して塑性加工の幅広さを学ぶことができました。毎月の定例ミーティングで各スタッフの勤務地を見学し、東海地区のものづくりに触れました。スタッフ研修会では、新潟県の燕三条を訪れ、他地区の産業を学びました。来年度は東海地区での活動を中心に、様々なものづくりの現場を訪れたいと思いました。

若手の内にもものづくりの現場を多く訪れることは滅多にありません。非常に貴重な機会をいただけている新進部会の活動に感謝しております。また、イベント開催に快くご協力いただき、温かく迎えてくださった皆様にもとても感謝しております。最後に、これまで 1 年間の活動を共にを行ったスタッフの皆様にも感謝申し上げます。来年度はリーダーを務めることとなります。現リーダーである加藤さんを見習い、東海支部の新進部会を盛り上げられるよう尽力して参ります。

## 5. 編集後記&謝辞

2024 年度サブリーダー 永谷 圭祐 (UACJ)

はじめに、本会報誌「新進部会のあゆみ Vol.8」の発刊にあたり、ご寄稿いただいた皆様に深く御礼申し上げます。ご多忙の中ご対応頂き誠にありがとうございました。本会報誌は 2022 年度から 2024 年度までの取り組みについて紹介しております。

2022 年度後半からは徐々にコロナによる制限が緩和され、委員会活動を行いやすくなりました。対面でのセミナー・講演会の開催や他支部との交流、全国各地のものづくりに触れて色濃い 3 年間でした。東海地域に根ざした活動を中心としながら、全国的に広く活動することができました。定例 Mtg.ではスタッフの勤務地を毎月周り、塑性加工の幅広さを学ぶとともに、スタッフ同士の親交も深めることができました。これらの活動を通して、社内の業務のみでは得られなかった知識やつながりを多く得ることができました。新進部会は 30 周年を迎え、歴史のある活動ですが現在もなお、理念を実現し目的に応じた活動を推進することができております。今後も東海地区を拠点とした活動を継承し、塑性加工のコミュニティ拡張および、学びを得られる機会を多く設けていきたいと思っています。

今後の行事開催案内は東海支部新進部会 HP(<http://www.jstp.or.jp/commit/tokai/sin/index.html>)をご覧ください。情報を得ることができます。至らなかった点も多々あったかと存じますが、次号も暖かく見守って頂けると幸いです。

【編集責任者 永谷 圭祐】

### 日本塑性加工学会東海支部新進部会あゆみ Vol. 8

令和 7 年 3 月 26 日 発行

編集・発行人 永谷 圭祐

〔 本誌は新進部会員、支部賛助会員、支部幹事その他関連部署に  
無償で配布します。無断転載を禁じます。 〕